

都内中小企業の設備投資、資金繰り等の状況

四半期調査：令和7年第Ⅳ四半期（10～12月）

設備投資：わずかに低下

採算状況：改善

資金繰り：ほぼ横ばいで推移

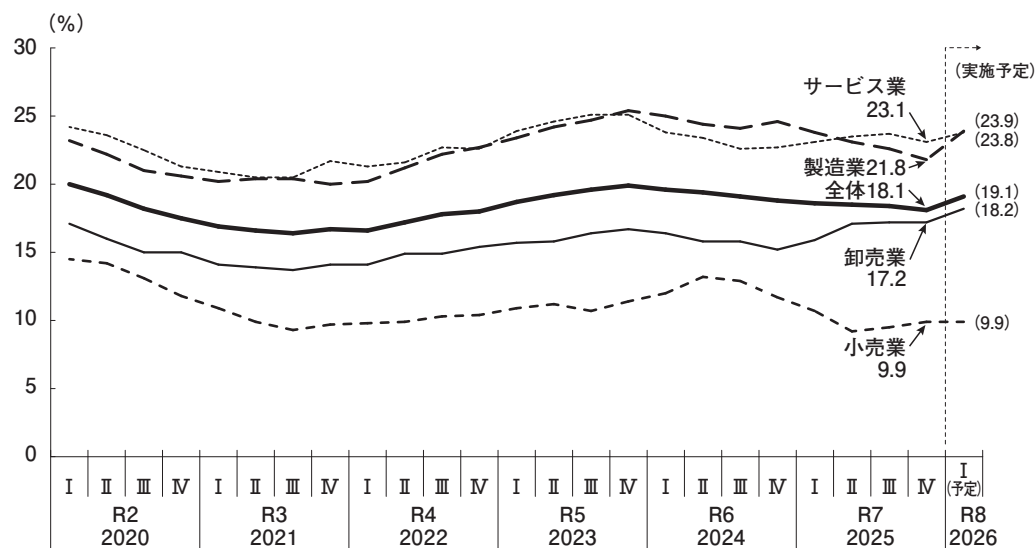
雇用人員：ほぼ横ばいで推移

■設備投資■

設備投資の動向を後方4四半期移動平均でみると、当期（令和7年10～12月）に設備投資を「実施した」割合は全体では18.1%となり、前期（令和7年7～9月）の18.4%からわずかに低下した。

業種別にみると、設備投資を「実施した」割合は製造業21.8%（前期22.6%）が低下、サービス業23.1%（同23.7%）はやや低下した。一方、小売業9.9%（同9.5%）はわずかに上昇した。

図表1 設備投資の実施割合の推移 —後方4四半期移動平均—



注）来期「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は、後方3四半期実績と来期予定の平均。

来期（令和8年1～3月）の設備投資の「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は全体では19.1%となり、大幅に上昇する見通しとなった。

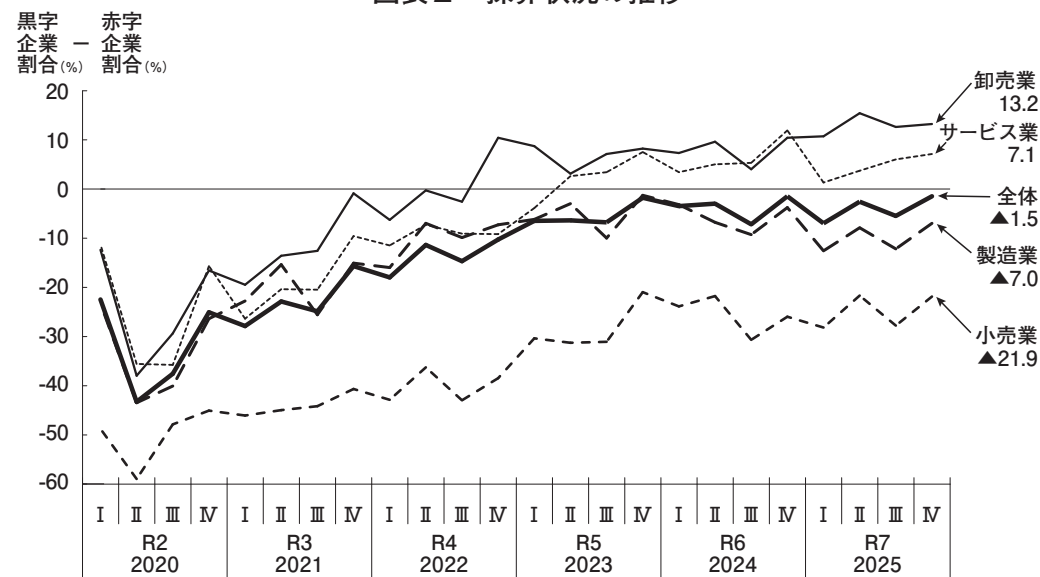
業種別にみると、設備投資の「実施予定」割合は当期と比べて製造業23.9%、卸売業18.2%、サービス業23.8%はそれぞれ大幅な上昇が見込まれる。

■採算状況■

当期の採算状況を「黒字」とした企業割合－「赤字」とした企業割合でみると、全体では▲1.5（前期▲5.5）となり、4.0ポイント増加し改善した。

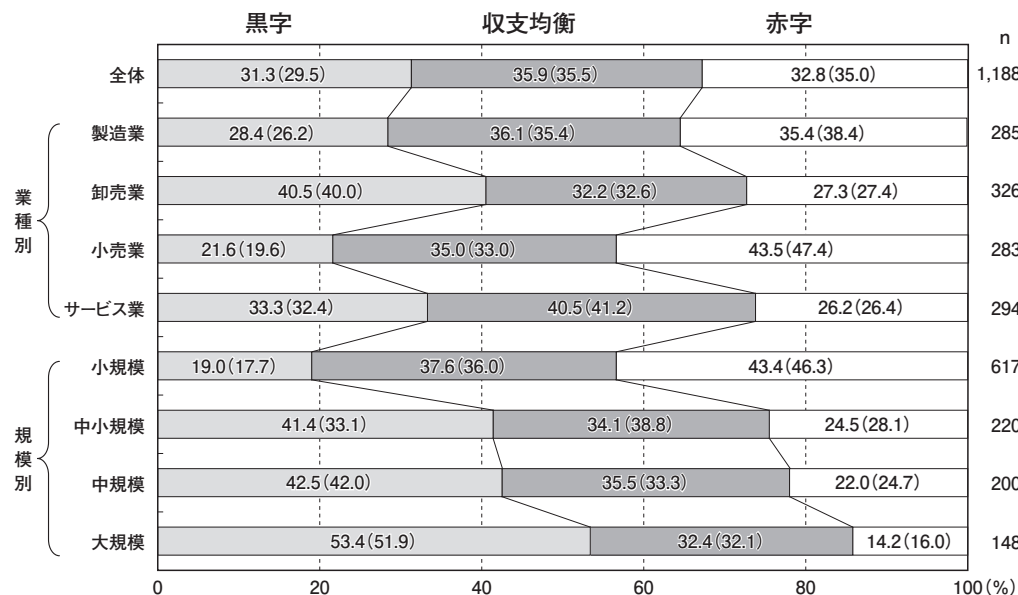
業種別にみると、小売業▲21.9（同▲27.8）は5.9ポイント増加、製造業▲7.0（同▲12.2）は5.2ポイント増加とともに改善、サービス業7.1（同6.0）は1.1ポイント増加しやや改善した。卸売業13.2（同12.6）はほぼ横ばいで推移した。

図表2 採算状況の推移



規模別にみると、規模が大きくなるほど「黒字」が高くなり、大規模は 53.4%（同 51.9%）を占めた。前期と比べて全ての規模で黒字の割合が増加した。

図表3 採算状況（業種別・規模別）



注）規模別は規模不明を除く。（ ）内は前期（令和7年7～9月）の数値。
四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

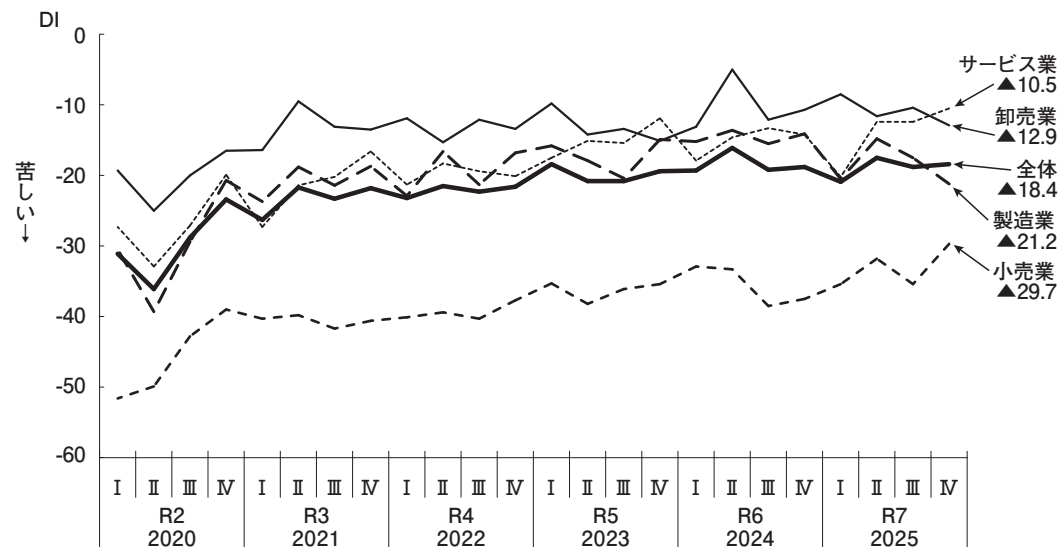
■資金繰り■

当期の資金繰り状況を資金繰りDI（「楽」－「苦しい」）でみると、全体では▲18.4（前期▲18.8）となり、ほぼ横ばいで推移した。

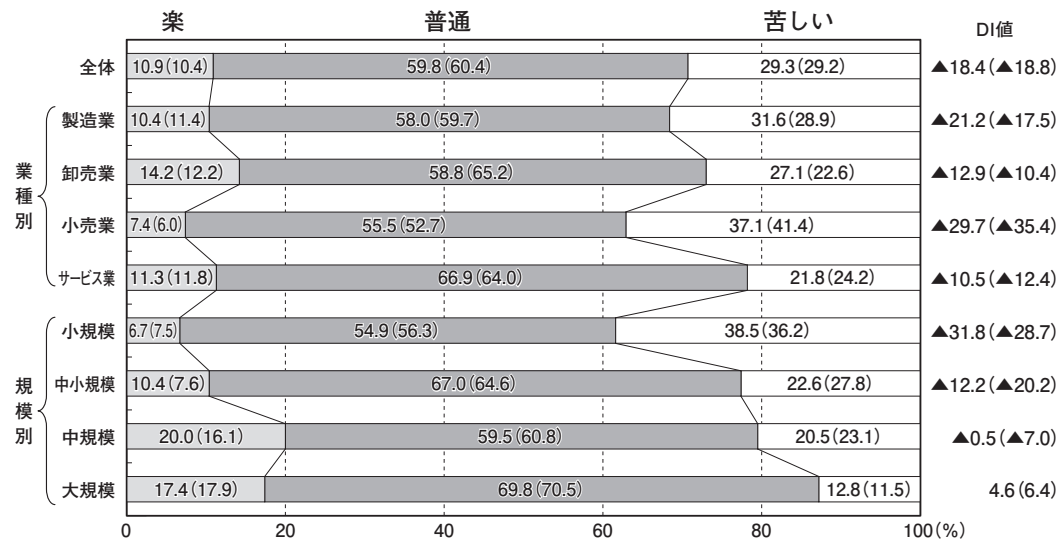
業種別にDI値をみると、小売業▲29.7（同▲35.4）は 5.7ポイント増加し大幅に改善、サービス業▲10.5（同▲12.4）は 1.9ポイント増加しやや改善した。一方、製造業▲21.2（同▲17.5）は 3.7ポイント減少し悪化、卸売業▲12.9（同▲10.4）は 2.5ポイント減少しやや悪化した。

規模別にDI値をみると、中小規模▲12.2（同▲20.2）は 8.0ポイント増加、中規模▲0.5（同▲7.0）は 6.5ポイント増加とともに大幅に改善した。一方、小規模▲31.8（同▲28.7）は 3.1ポイント減少し悪化、大規模 4.6（同6.4）は 1.8ポイント減少しやや悪化した。

図表4 資金繰りDIの推移



図表5 資金繰り状況（業種別・規模別）

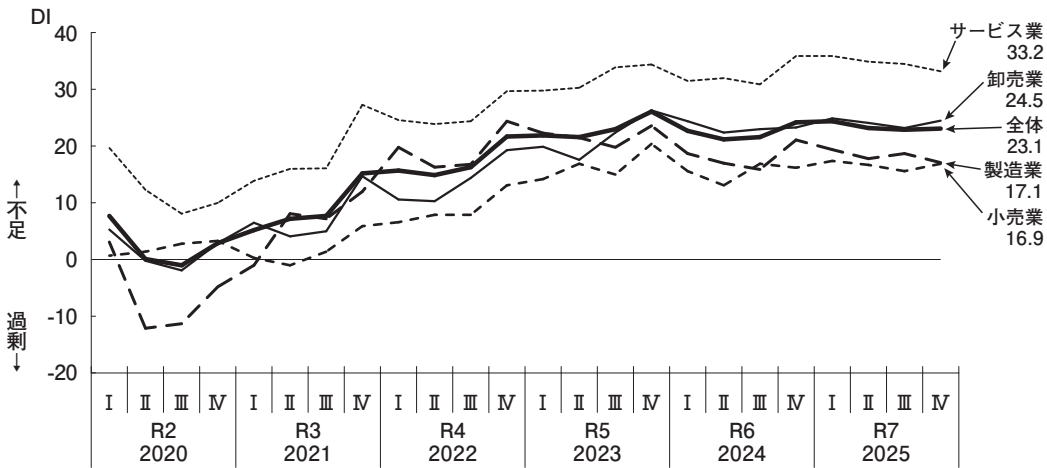


注）規模別は規模不明を除く。（ ）内は前期（令和7年7～9月）の数値。
四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

■雇用人員■

当期の雇用状況を雇用人員DI（「不足」－「過剰」）でみると、全体では 23.1（前期 22.9）とほぼ横ばいで推移した。

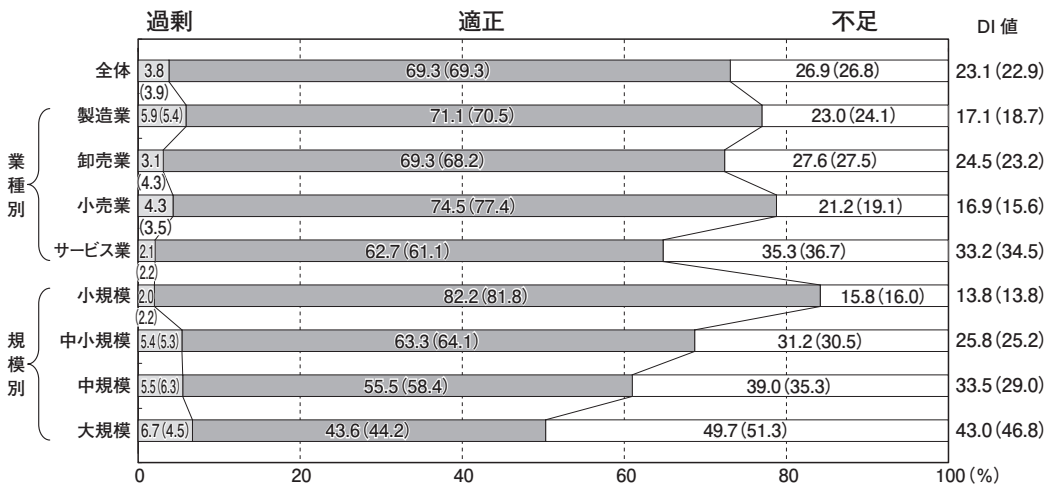
図表6 雇用人員DIの推移



業種別にDI値をみると、卸売業 24.5（同23.2）と小売業 16.9（同15.6）はともに 1.3ポイント増加しわずかに上昇した。一方、製造業 17.1（同18.7）は 1.6ポイント減少、サービス業 33.2（同34.5）は 1.3ポイント減少しともにわずかに低下した。

規模別にDI値をみると、規模が大きくなるほどDI値が高くなり、大規模は 43.0（同 46.8）となった。

図表7 雇用人員の状況（業種別・規模別）



注）規模別は規模不明を除く。（ ）内は前期（令和7年7～9月）の数値。
四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。